

第 6 学年社会科学学習指導案

指導者 呉市立両城小学校 高下 千晴

- 1 日 時 平成 29 年 9 月 27 日 (水) 第 3 校時
- 2 学 年 第 6 学年 1 組 20 名 (男子 13 名 女子 7 名)
- 3 単 元 明治の新しい国づくりー富国強兵と呉の街の近代化の様子を調べようー (全 10 時間)
- 4 本単元について

(1) 単元観

本単元は、新小学校学習指導要領社会の第 6 学年の内容

- (2) 我が国の歴史上の主な事象について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。

ア(ケ) 黒船の来航、廃藩置県や四民平等などの改革、文明開化などを手掛かりに、我が国が明治維新を機に欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことを理解すること。

を受けて設定した。

本単元は、明治政府が「富国強兵」を国の目標に掲げ、欧米列強に負けない近代的な国づくりを進めた理由を当時の社会状況と関連させながら理解させ、その政策がどのように実行され、国民生活に影響を与えたのかを呉軍港建設を通して考えさせることをねらいとしている。

幕末から明治にかけて、国際社会における我が国の立場は弱く、不平等条約締結や、欧米列強のアジアに対する植民地政策など国の存亡に関わる問題を抱えていた。少しでも早く欧米列強に迫いつき国力の差を縮めるため、明治政府は官営工場建設などによる産業の活性化と、近代的な軍隊の導入による軍事力の強化を図った。これらの施策は全国各地で実行された。そして、それらの中には現在の我が国の産業の発展の礎になっているものも多い。一方、国民の生活は、欧米の生活様式や制度の導入、地租改正、徴兵令、学制の公布などにより大きな影響を受け、負担を強いられる面もあった。

呉市は、このような社会状況の中で整備された街の一つである。呉は江戸時代まで半農半漁の小さな村であった。平地が少なく稲作に適さない土地であったため、庄屋が中心となり干拓や用水路の整備を行い、計画的に新田開発を行ってきた。また、百姓は副業として、綿花栽培、漁網作り、鰯漁(干鰯)などを行い、現金収入を得る努力も行っていた。しかし、明治 19 年(1886 年)明治政府が呉で軍港建設を始めると、農業と漁業を中心としたこれまでの暮らしは一変した。海沿いの土地には海軍が作成した都市計画案に基づき、新たな街が作られた。そして、軍人、海軍関係者、海軍工廠で働く人、海軍相手の商売を行う人などが全国から集まり、呉市はサービス業の盛んな商業都市、東洋一の海軍工廠をもつ工業都市へと変わっていった。呉市が大きな街へと急成長した理由の中には、呉港家屋建築制限法などの法律が施行され、様々な場面で市民生活に対して制限がかけられ、海軍優先の施策が行われていたことも挙げられる。

本単元では呉軍港建設を取り上げ、我が国の近代化の過程を身近な文化遺産を通して具体的に捉えさせていきたいと考えている。そして、為政者の政策を扱うだけでなく、国民の生活にも視点を当て、様々な人の立場から当時の時代の様子を考えさせ、児童の歴史的事象の見方を広げていきたい。

(2) 児童観

本学級は、89%の児童が社会科に対して関心・意欲をもっている。その主な理由は、様々な社会事象を知り、深く考えていくことが楽しいというものであった。また、資料を比べながら読むことでよりよく理解することができると回答した児童は 94%であった。学習問題を解決していく過程で、資料を活用することの有効性を理解している児童は多い。そして、調べたことをいくつかつないでそこから分かることを考えているのかという質問に対して 100%の児童が考えていると答えている。調べたことをグループ対話や全体対話を通して関連付け、総合していくことが授業の中でスムーズに行われていることが分かった。しかし、全体対話の中で友達の意見につなげたり、まとめたりして発言することを苦手とする児童は多い。発言を行う際、必要に応じて話し方モデルを提示するなどの支援が必要である。

幕末から明治時代における歴史的事象については、「黒船来航」はほとんどの児童が知っていた。幕末の倒幕運動やそれに関わった人物については多くの児童が関心をもっている。しかし、「富国強兵」や「殖産興業」など明治政府が進めた政策の内容や政府の中心となり活躍した人物については、関心が薄い。

また、呉の街の歴史で知っていることについて聞いたところ、84%の児童が「呉空襲」と答えた。これは、毎年 7 月 1 日の呉空襲の日に、全校で黙祷する行事があるためだと考える。しかし、「呉に軍港があった」と答えた児童は 1 人しかいなかった。呉で空襲があり大きな被害を受けたことは知っている

が、呉に軍港があったことがその原因の1つであったことと結びついていない児童が多い。

(3) 指導観

指導にあたっては、まず幕末と明治時代の日本橋の街の様子を比べ、西洋のものを積極的に取り入れていることに対して興味をもたせたい。そして、なぜ明治新政府は積極的に西洋のものを取り入れようとしたのか、取り入れる必要があったのか疑問をもたせ、単元を貫く学習問題を設定する。そして、予想を立てさせ、「国外政治」「国内政治」「国民生活」の3つの視点で整理を行い、学習の見通しを持たせる。

学習問題の解決に向けては、まず予想をもとに幕末から明治時代にかけての出来事について資料を使い調べさせていく。なぜ富国強兵策が必要とされたのか、当時の国際社会の状況や、不平等条約の内容、国内での政治や経済の問題を政府の立場で考えさせ、新政府が西洋を手本として国づくりを進めた理由をまとめさせる。次に、富国強兵策がどのように実行されたのかをより具体的に理解させるため、呉軍港建設について取り上げていく。身近な文化遺産に注目させ、なぜそれが当時の社会状況の中で必要とされたのかを考えさせることで、新政府が行った政策とのつながりを理解させていきたい。そのために、新政府の政策と呉で起こった出来事との関わりがよりよくつかめるように年表を活用させていく。最後に、近代化の過程において大きく変化した国民生活についても注目させていく。急速な近代化が国民生活に対してどのような影響を与えたのかを当時の呉市民の立場から考えさせ、富国強兵策は国民にとってどのような政策であったのかを自分の言葉でまとめさせていきたい。

単元の終わりの「まとめる・広げる」過程では、単元で付けた力を使って呉市の成り立ちを紹介する文章を書かせていく。総合的な学習の時間で作成している「両城紹介パンフレット」の中に呉市の成り立ちを紹介するコーナーを設ける。作成したパンフレットは修学旅行先で出会った人に簡単な説明をして手渡す予定である。自ら呉の街の歴史を発信していく場を設定することで、自分達の街の在り方について興味をもつことができると考えている。

5 単元の目標

- ・ 明治政府が行った諸改革について調べ、政府が欧米の文化を取り入れつつ我が国の近代化を図ったこと、欧米諸国と対等な関係を築こうとしたことを理解することができる。
- ・ 政府主導の近代化政策により国民生活がどのように変化していったのか、地域に残されている文化遺産を通して考え、適切に表現することができる。
- ・ 幕末から明治時代にかけての世の中の動きと人々の暮らしの変化の様子に関心をもち、政治や社会の仕組みの変化について意欲的に調べることができる。

6 評価規準

社会的事象についての知識・技能	社会的事象についての思考・判断・表現	社会的事象への主体的な態度
① 明治政府が欧米諸国と対等な関係を築くため欧米の文化を取り入れながら諸改革を行い、近代化を進めたことを理解している。	① 明治政府が進めた諸改革が国民生活に与えた影響について考察している。	① 幕末から明治時代にかけての歴史的事象や明治政府が行った諸改革、それに伴って変化した人々の暮らしの様子に関心をもち、意欲的に調べようとしている。
② 幕末から明治時代にかけての歴史的事象について、地図や年表、その他の資料を活用して必要な情報を集め、読み取ることができる。	② 明治政府が進めた諸改革が全国各地でどのように実行されたのか、地域に残る文化遺産を通して考え、適切に表現している。	② 明治政府の近代化にむけての諸改革と私達の街である呉とのつながりに気付き、自分達の街の在り方について興味をもつことができる。

7 教材分析【知識の構造図】

概念的知識

明治新政府は、欧米諸国に負けない強い国にするため欧米の文化を取り入れつつ国の仕組みを整え、富国強兵を国家の最優先策とし、近代化を進めた。

説明的知識

江戸幕府は、黒船来航により開国を行うなど支配力を弱め、薩長を中心とする下級武士たちによって倒された。

明治新政府は欧米の制度、文化、考え方などを積極的に取り入れ、改革を行い、経済力と軍事力の強化に力を入れた。

明治新政府主導による改革は全国各地で実行され、国民の生活に影響を与えた。

記述的知識

黒船来航をきっかけとして江戸幕府は支配力を弱めていった。

①

外国との貿易や戦いにより、世界情勢を知った下級武士たちがより強い国をつくるために幕府を倒した。

②

西洋の技術や制度が積極的に導入され、欧米諸国に追いつこうという考えは、文明開化として人々の生活や文化にも影響した。

③

新政府の中心となった大久保利通や木戸孝允らは、天皇中心の中央集権国家づくりをめざし、版籍奉還、廃藩置県などの改革を行った。

④

産業の活性化を図るため官営工場の建設などが行われた。

⑤

近代的な軍隊を設立し、軍事力の強化を図った。

⑥

西日本の軍事拠点として呉浦に海軍鎮守府が置かれ、街の開発が始まった。

⑦

これまで行ってきた農業や漁業が衰退し、代わって海軍相手の商業やサービス業、工業などが産業の中心となり、人口が急増した。

⑧

市民生活に対して様々な制限がかかり、海軍優先の施策がとられた。

⑨

全国各地で富国強兵策が政府主導で進められ、国民生活に制限がかけられた。

⑩

用語・語句

黒船来航 開国 ペリー 日米和親条約

不平等条約 大政奉還 近代化

明治維新 文明開化 四民平等

五箇条の御誓文 版籍奉還 廃藩置県 地租改正

殖産興業 学制公布 官営工場

富国強兵 徴兵令

海軍鎮守府 海軍工廠 都市計画

呉市の誕生

呉市民の水問題

足尾銅山鉍毒事件

8 指導と評価の計画（計10時間）

次 時 数	過 程	学習活動 【知識の構造図との関係】	評価の観点			評価規準	評価 方法
			知	思	態		
一次 (1)	つかむ	江戸と明治の日本橋の街の様子から、時代の変化を概観し、学習問題をつくり、学習計画を立てる。【③】			◎	江戸と明治の日本橋の街の様子の変化に関心をもち、学習問題や予想、学習計画を考え、意欲的に調べようとしている。	・ノート ・発言
		学習問題：なぜ明治政府は積極的に西洋のものを取り入れようとしたのだろうか。また、人々の生活は江戸時代に比べてどのように変化したのだろうか。					
二次 (5)	調べる・考える	黒船来航が我が国に与えた影響を各種資料から読み取る。【①】	◎			欧米の国々と我が国との間には国力の差があり、幕藩体制では解決できない状況になっていたことを理解している。	・ノート ・発言
		不平等条約の内容を知り、我が国の国際社会の中での立場を理解する。【②】	◎			欧米と結んだ条約の内容が我が国にとって不平等なものであり、近代化の遅れを理由に条約改正に応じてもらえなかったことを理解している。	・ノート ・発言
		明治新政府が近代的な国家をめざして改革した国のしくみの在り方を各種資料から読み取る。【④】	◎			明治新政府が欧米諸国に負けない国をつくるため、近代的な中央集権国家のしくみを整えようとしたことを理解している。	・ノート ・発言
		富国強兵策の内容を調べる。【⑤⑥】	◎			明治新政府は欧米の進んだ技術や制度を取り入れ、富国強兵の政策を進めたこと、それに伴った国民生活に与えた影響を理解している。	・ノート ・発言
		明治新政府が積極的に西洋のものを取り入れた理由を学習したことからまとめる。		◎		明治新政府が積極的に西洋のものを取り入れた理由を改革の内容と国民生活の変化に触れながら適切に表現している。	・ノート ・発言
		深まった課題：富国強兵策は全国各地でどのように実行されたのだろうか。軍港建設の行われた呉の人の暮らしの様子を調べてみよう。					
三次 (3)		私達の街に残る文化遺産から軍港建設により発展した当時の呉の街の様子を調べる。【⑧】	◎			身近にある文化遺産を通して、富国強兵策により呉の街が大きく発展した様子を理解している。	・ノート ・発言
		呉に海軍鎮守府が置かれた理由について各種資料から考える。【⑦】		◎		呉が軍港に適した場所として選ばれた理由を地理的条件、当時の国際社会情勢などから考え適切に表現している。	・ノート ・発言
		明治新政府が進めた富国強兵策により国民が受けた影響について話し合う。【⑨⑩】 (本時)		◎		明治新政府が進めた富国強兵策が国民の暮らしにどのような影響を与えたのかを適切に表現している。	・ノート ・発言
四次 (1)	広げる	パフォーマンス課題 修学旅行で配布する「両城紹介パンフレット」の中で、呉市の成り立ちを紹介しよう。					・構成メモ ・紹介文
		呉市の成り立ちを紹介文にまとめる。	○		◎	呉市の成り立ちと富国強兵策との関わりを紹介文にまとめようとしている。	

9 本時の学習（第三次 3 / 3 時間目）

(1) 目 標

呉市で起こった水問題について取り上げ、市民（国民）の声が海軍（政府）に届きにくい状況の中で富国強兵策が進められていったことを理解し、適切に表現することができる。

(2) 評価規準

明治新政府が進めた富国強兵策が国民の暮らしにどのような影響を与えたのかを適切に表現している。

(3) 準 備 物

①明治時代初めと大正時代初めの呉市街地写真

②読み物資料「いなり水と呉市民の生活」 ③呉市水道施設マップ（明治時代）

④海軍水道マンホール写真 ⑤「呉とレンガ」（呉市史編纂室）p 1 2

⑥全国各地に進められた富国強兵策の事例 ⑦本庄水源地の写真

(4) 学習展開

過 程	学 習 活 動 (○主な発問)	予想される児童の反応	思考の 方法	指導上の留意点 (□) 評価規準 (評価方法) (○)
つかむ	1 前時までの学習を振り返る。 2 呉市で起こった水問題について知る。 ○ みなさんは「いなり水」のお話を聞いたことがありますか。 3 本時の課題を確認する。	- 日本で1番大きな兵器工場や造船工場がおかれた。 - 明治政府は富国強兵を進めるため莫大なお金を使って軍港を作った。 - 水道施設は全国で3番目にできていたはずだ。 - どうして、呉市民の3万5千人は毎日水を買に行かないといけなかったのか。		□ 明治時代初めと大正時代初めの呉の街の写真を比較し都市化が進んだ様子を振り返らせる。 (資料①) □ 「いなり水と呉市民の生活」の話を紹介し、問題意識をもたせる。(資料②)
	呉市は日本で3番目に水道施設が作られていたのに、なぜ人々はわき水を毎日買に行かなくては いけなかったのでしょうか。			
予想する	4 学習問題に対する自分の考えを出し合う。	- 人口が急に増えたのでみんなに水道の水を分けることができなかったのではないかな。 - 水道使用料が高く、気軽に使えるものではなかったから。 - 水道の水は海軍が優先して使っていたのではないかな。		□ これまでの学習を想起させながら自分なりに考えさせる。

調べる・考える	5 呉市水道施設マップから水問題が起こった原因を調べる。 ○ 呉市水道施設マップから市民が水道の水を使わなかった理由をみつけましょう。 ○ なぜ海軍はこのようなことを行ったのでしょうか。 6 明治政府が進めた富国強兵策と市民生活との関わりについて考える。 ○ 呉に軍港ができたことは呉の人達にとって本当によかったことだと思いますか。これまで学習したことをもとに、あなたの考えを書きましょう。	・ 取水口の看板に「呉鎮守府水道」と書かれてある。 ・ 宮原浄水場は海軍の敷地の中にある。 ・ 水道管は二河川から軍用地へとつながっているものしかない。 ・ 呉市水道施設は市民のためのもではなく、海軍が軍用地の中で使うためのものだった。 ・ 富国強兵のため ・ 軍人が病気になっては戦争が起こった時に困るから。 ・ 強い軍隊を作るため、海軍のことが市民生活より優先された。 <u>よかったところもある→経済的に豊かになった</u> ・ 軍港ができたおかげでたくさんの仕事があり、生活に困らなかった。 ・ 全国から人が集まり、呉はにぎやかで便利な街になった。 ・ この時代に呉市が大きな街へと発展したから、今の呉の街があると思う。 <u>よくなかったところもある→海軍優先・市民の声が届きにくい</u> ・ 水の問題や住宅の問題など海軍が優先され、市民ががまんしなくてはいけないことが多かった。 ・ 海軍ばかりがよいところを独占して不公平だ。	比較	□ 呉市水道施設マップ（明治時代）から、海軍のために作られた水道であったことに気付かせる。（資料③） □ 入船山記念館に現在も残る「海軍水道」の水道栓を紹介する。（資料④） □ 「呉とレンガ」から、海軍は船舶給水と伝染病対策のため水道施設を必要としていたことを紹介する。（資料⑤） □ よくなった部分と課題として残された部分を出させ、それらを比較させながら政府主導で行われた急速な近代化が市民生活に与えた影響について考えさせていく。
	7 全国各地で行われた富国強兵策と国民生活の影響について知る。	・ 他の地域でも呉と同じようなことが起こっていた。 ・ 富国強兵策を進めることが優先され、国民の生活にどんな影響が出るかについてはあまり考えられていない。	関連付け	□ 足尾銅山について紹介し、全国各地で実行された富国強兵策は、短期間で目標を達成することに重きがおかれ、国民生活への影響は考えられていなかったことを知る。（資料⑥）

まとめる	8 学習問題に対する自分の考えをノートにまとめる。 9 本時の学習の振り返りをする。	まとめ (例) 呉市の水道施設は初めから海軍のために作られたものだったので、市民は水道水を使えずわき水を毎日買わなければならなかった。富国強兵のため市民生活より海軍のほうが優先されていた。このような国民の声が届きにくい状態は全国各地で起こっていた。	総合 ○ 明治新政府が進めた富国強兵策が国民の暮らしにどのような影響を与えたのかを適切に表現している。(ノート) □ 呉市民の水問題は、大正時代になり条件付きではあるが解決していったことを伝え、市民の生活の改善には時間がかかったことを知らせる。(資料⑧)
-------------	--	---	---

10 板書計画

めあて

呉市は日本で3番目に水道施設が作られていたのに、なぜ人々はわき水を毎日買いに行かなくてはならなかったのでしょうか。

資料③



予想

- ・人口が増えすぎて水道水の水は足りなかったから
- ・水道使用料が高くて気軽に使えなかったから。
- ・水道の水は海軍が優先して使ったから。

資料④

呉市水道施設マップ (明治時代)

はじめてから海軍が使うために水道施設は作られていた

富国強兵のため

呉に軍港ができたことは呉の人達にとって本当によかったことなのか？

よかった

- ・仕事がたくさんあり、生活が便利になった。
- ・政府の予算があったので軍港と街がどんどん発展した。
- ・この時代に作られたものを今の私達の生活でも使っている

よくなかった

- ・市民生活の制限。
→ 呉の水問題は、市民の命が大切にされていなかったということではないか。
- ・海軍優先で市民の声は届かない。

江戸時代より産業が発達し、経済的に豊かになった

しかし

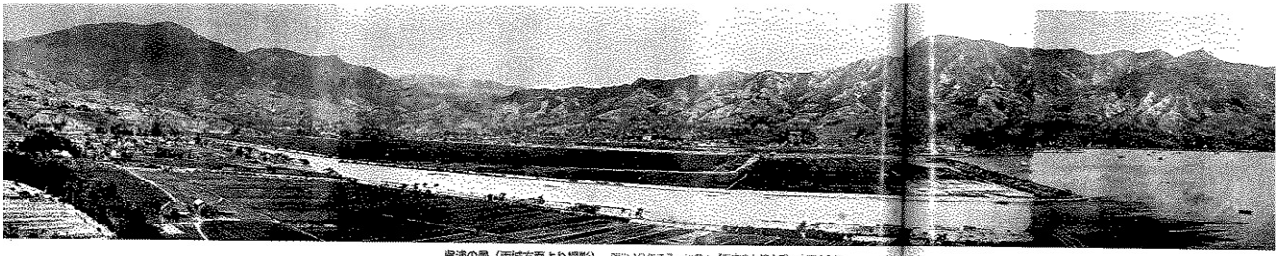
富国強兵策が全ての面で優先

全国各地で政府優先、国民の声が届きにくい状態が起こっていた。

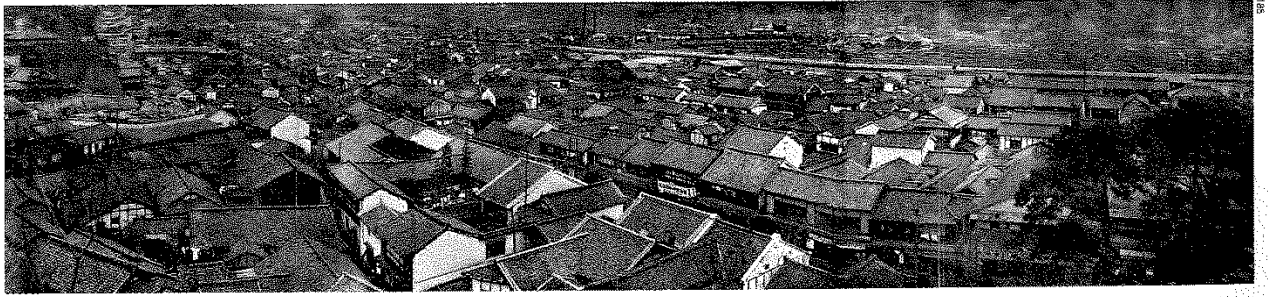
まとめ 呉市の水道施設は初めから海軍のために作られたものだったので、市民は水道水を使えずわき水を毎日買わなければならなかった。富国強兵のため市民生活より海軍のほうが優先されていた。このような国民の声が届きにくい状態は全国各地で起こっていた。

11 資料

①明治時代初めと大正時代初めの呉市街地写真（出典：「呉の歴史」 呉市 ）



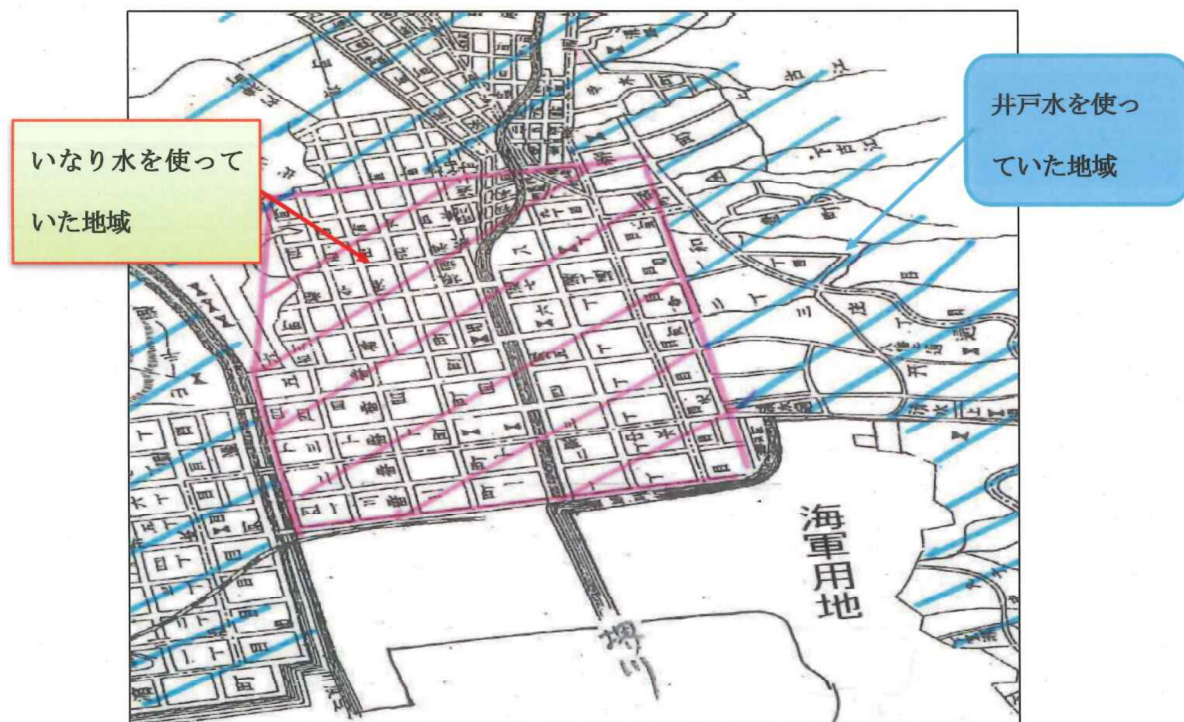
呉浦の景（両城方面より撮影） 明治19年ころ 出典：『呉市史』第1輯 大正13年



大正後期の呉市街（両城方面より撮影） 出典：『呉市史』第1輯 大正13年

「水（いなり水・井戸水）と呉市民の生活」

H290927



水 売 り

明治23年、呉市に全国で3番目となる水道施設が完成します。しかし、呉市民は生活で使う水として山手に住む人達は「井戸の水」を、中央地区に住む人達は「いなり水」を使いました。「いなり水」は稻荷神社の境内から湧き出ている湧き水です。

「いなり水」を必要とした人々は、毎日一家族で一荷（約55リットル）の水を水売りから買いました。この水を必要としていた家は7千戸、約3万5千人の人達です。

「井戸の水」や「いなり水」は、しばしば赤痢や腸チフス、コレラなどの伝染病を引き起こす原因となりました。この病気にかかり亡くなる人もいました。しかし、それでも人々は井戸の水や「いなり水」を飲み水として使い続けました。

「いなり水」の販売は大正7年まで続けました。

〔出典：「呉の歴史」p201 広島市水道局HP 市政出前講座「水道の水ができるまで」より抜粋 一部やさしく書き直したもの〕〔地図：呉市立中央図書館〕

呉市水道施設マップ(明治時代)



登録有形文化財
呉水道局二河水源取水口（1889年）

呉鎮守府の軍用水道施設のひとつ。宮原浄水場に水を入れるために作られた。我が国初期の水道施設のひとつとして貴重。



二河水源取水口(明治時代)

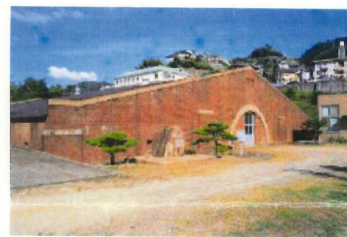
二河の井手取水口(江戸時代)

はじめは、取水口から取り入れた水を農家と海軍と一緒に使う約束をしていた。しかしだんだんと軍用水道のほうに流れる水のほうが多くなり、井出に流れてくる水は減っていった。

水道管 (取水口から浄水場まで水を運ぶ管)

登録有形文化財
呉市水道局宮原浄水場（1890年）

呉鎮守府の軍用水道は、横浜・函館に続き、我が国3番目にできた水道施設で、宮原浄水場はそのひとつとしてつくられた。



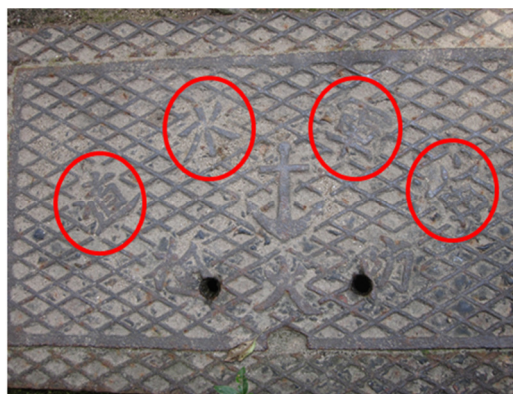
国重要文化財
旧呉鎮守府司令長官官舎（1889年）

1889年に呉鎮守府が開庁。1892年から長官官舎として利用された。



明治32年(1899年)呉市街地図

④「海軍水道」のマンホール（入船山記念館）



⑤「呉とレンガ」（呉市史編纂室） p 1 2

呉鎮守府水道（現・呉市水道局施設）

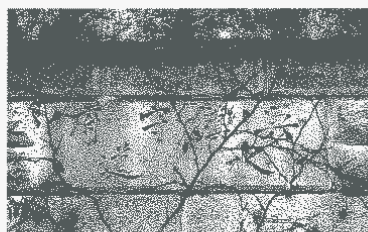
呉港を一望できる国立呉病院の背後の丘に、旧海軍が築造した宮原浄水場がある。

明治19（1886）年に呉浦に第2海軍区鎮守府の設置が決定されると、船舶給水や伝染病対策上から、近代水道の整備は、もっとも重要な緊急施策の一つとなった。水源を二河川に求め、約4.3キロメートルを鉄管で送水し、高台の宮原浄水場で浄化した水を海軍構内の各施設に配水する水道計画をたて、同21年に着工し、23年に完成。わが国では、横浜・函館について3番目に完成した近代水道である。

二河の滝上流の取水口は、自然石をくりぬいた取水隧道（トンネル）で、御影石張りの表壁面



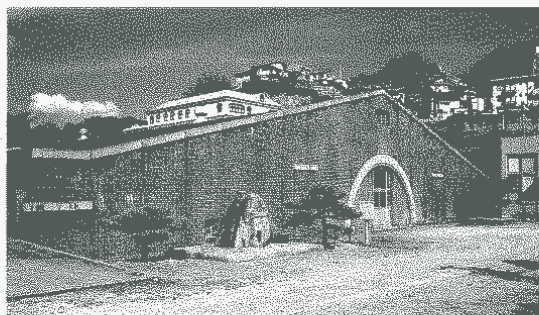
二河水源地の石造り取入口



「呉鎮守府水道」とかかれた銘板

には「呉鎮守府水道」と刻んだ銘板がはめこまれている。

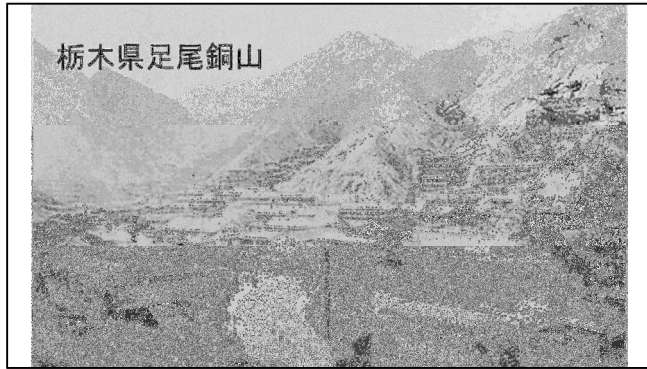
宮原浄水場の上屋式配水池は、横37メートル、縦44メートル、高さは4～7メートルのレンガ壁構造（上屋部分は鉄骨造）。レンガ造の水道施設としてはわが国最古のものといわれ、築造当時のままの赤レンガの側壁に囲まれた姿で現存し、いずれも今なお現役として稼働している。



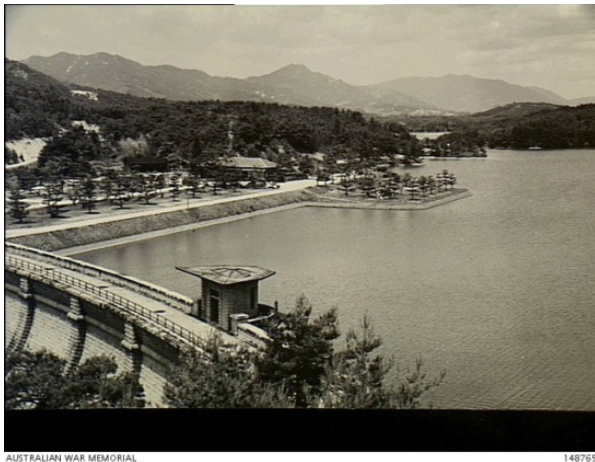
宮原浄水場（青山町）

昭和60（1985）年、歴史的・技術的に価値ある全国の水道施設百点を選んだ「水道百選」に、この「宮原浄水場」と「二河水源地」が「三永水源地」とともに選ばれた。昭和27年、「旧軍港市転換法」により、国から呉市に譲与され、名実ともに呉市民の水道施設となっている。

⑥ 全国各地で行われた富国強兵策



⑦ 本庄水源地 (大正 7 年給水開始)



12 児童の振り返りの実際 (ノート記述より)

富国強兵によっていろいろなことが良くなって近代化が進んでいたけど、強兵にかたむくとそのことによって国民生活が大変になっていったので良いことばかりではないことが分かりました。でも、富国にばかりかたむいていたならば、外国から攻められたときに負けてしまうので、こちらも困ると思いました。もっとバランスよく富国と強兵をすることはできなかったのだろうかと思います。

軍人がもしいなり水を飲んでいたら病気にかかってしまう可能性があります。そうすると海軍は戦えなくなります。だから、海軍が水道の水を独り占めし、市民はいなり水や井戸水を飲み続けていたことは分かりました。だけど、海軍は市民に水道の水を分けないのはひどいと思います。市民の生活や命でさえも海軍(政府)によって簡単に左右されるというのはおそろしいことだと思いました。

13 参考資料

○明治時代年表

和暦	西暦	呉に関わるできごと	政府の動きやできごと
慶応3年	1867		大政奉還
明治元年	1868		五箇条の御誓文
2年	1869		版籍奉還
4年	1871		廃藩置県
5年	1872		学制公布
6年	1873		太陽暦実施 地租改正
11年	1878		大久保利通暗殺
18年	1885		伊藤博文初代内閣総理大臣就任
19年	1886	5月 呉に海軍鎮守府がおかれることが決定 8月 用地の買収が始まる 11月 呉鎮守府起工式 呉港への民間船の出入りを制限	
20年	1887	呉港家屋建築制限法公布 川原石港以外への民間の入港を禁止	
22年	1889	呉鎮守府開庁 呉軍港境域制定(工事や交通において種々の制限を住民が受ける)	大日本帝国憲法発布
23年	1890	日本で3番目に水道給水開始(宮原浄水場)	第1回衆議院総選挙
24年	1891	造船工場完成	
27年	1894	損傷した船の修理を行う	日清戦争
28年	1895	兵器製造所完成	
31年	1898	1万トン以上の大型船が建造できる東洋一の大きさのドックが完成	
32年	1899	電灯供給開始 呉要塞地帯指定(区域内の測量・撮影・漁業など禁止制限)	
35年	1902	和庄村・荘山田村・宮原村・二川町が合併し呉市となる。	
36年	1903	呉海軍工廠設立(造船工場と兵器工場が合併する) 鉄道 呉～広島間開通	
37年	1904		日露戦争
38年	1905	呉郵便局・電話局交換業務開始	
42年	1909	広島県内初 市街電車開通	

14 参考文献

- 「呉の歴史」 呉市
- 「呉市史 第4巻」 呉市
- 「呉市水道史 第1巻」 呉市水道局
- 「呉ー明治の海軍と市民生活ー」 呉公論社
- 広島市水道局 HP 市政出前講座「水道の水ができるまで」
- 「呉とレンガ」 呉市史編纂室